



# 百里音頭

作詞 不明(三) 四番は柳岡 修二  
作曲 (三池炭坑節のメロデーで歌う)

一、 百里の基地の真ん中に ヨイヨイ  
「く」の字曲がりの滑走路  
なんで「く」のかおかしがる  
日本の政治も曲がつてる サノヨイヨイ

二、 射撃場 (じょう) 山から見下るせば ヨイヨイ  
基地のお庭は丸見えだ  
空将閣下に一佐、一二佐  
「く」の字で苦勞が絶えやせぬ サノヨイヨイ

三、 民間共用は危ないよ ヨイヨイ  
爆弾・飛行機降ってくる  
九条つぶせば大威張り  
憲法違反の自衛隊 サノヨイヨイ

四、 三沢も嘉手納もひとつ飛び ヨイヨイ  
イラク行くのもラクラクだ  
農業つぶして米輸入  
お稲荷さんも怒ってる サノヨイヨイ

一番 二番の歌詞は、松原 日出夫さんから聴いたものです。東京出身の誰だかを作ったもので、『ウロおぼえ』になった。」と言っておりましたから、正確ではないかも知れませんが、短い曲なのにそれだけではさびしいと感じたので、三、四番を試作してみました。

(柳岡 修二)



表面から  
まさにベートーヴェンはこの空気を吸って成長したといえるでしょう。だから彼の作品には人間の肯定的なものをすべてが含まれています。「正義、真実、愛、勇気、美」。だからこそ時代を超えていまなお最も大きな感動を私たちに与えているのだと思います。

「おまえは作曲家は誰が一番好きか」と問われれば、ダサいオジンを自認する私はためらいなく「ベートーヴェン」とこたえるでしょう。

一方モーツァルトは、1756年1月オーストリアのザルツブルクに生まれ、1791年12月、わずか35歳でなくなっています。彼は6歳で最初の作曲を始めています。まさに神童です。当時の音楽家演奏家はたいがい宮廷に仕えていますし、モーツァルトも特に父のレーオポルドはそれを強く希望していました。しかしモーツァルトは身分制度や収入の少なさ、作りたいものも作れない不自由さから、自立の道を歩みます。自分の作品がそして演奏が人々に広く受け入れられるという絶対の自信があったためでしょうか。家計が火の車のような生活の中で、神に導かれるごとく、次から次と湧き出る調べを5線に書き付けていきました。まさに「天上の調べ」としかたとえようのない美しい旋律の数々です。

私が、伊藤真さんの憲法前文の解説に、このモーツァルトの調べを重ね合わせたのはなぜでしょう?たとえば次の1節です。「私は、この前文の平和主義の基本にある、『平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して』という言葉に惹かれます。

外国を信頼するなんてもっての外だとの声も聞かれますが、ここでは外国を信頼するとは一言もいっていません。どのような国であっても平和を愛する人はいるはずだ、その人びと(Peaselovinoles)を信頼して平和を実王するといっているのだ。また、次のような一節もあります。どこの国でも国民の多数派はときに過ちを犯します。中略...

国民の多数意見に従った民主主義だからといってそれが正しいという確証はありません。そこでそのときどきの多数の国民が雰囲気流されて間違った判断をしないように、予め頭が冷静なときに、多数決でやってはいけないこと、多数決で奪ってはならない価値を決めて列挙しておきました。それが憲法です。伊藤さんは「憲法を守らなければならない」とは言いません。「日本国憲法はこんなにすばらしいんだよ。こんなに素敵なのが書いてあるんだよ」と詠唱して(うたって)いるだけなのです。多少大げさですが全編が「天上の調べ」のように清澄で美しく語りつづられています。

教育基本法を衆議院で野党不在のまま強行採決し、「5年以内に改憲の道すじをつける」という安倍内閣の暴走を前にし

て、伊藤さんはどのような講演をしてくれるのでしょうか。今回は多少ベートーヴェン的なならざるを得ないのではないかと思います。今からワクワクして待っています。

音楽について、特に感性も知識も持ち合わせていないひとりの元労働者の、独断と偏見に満ちた駄文であることを承知で、書きつけてみました。しかし、伊藤真さんに関するホームページを見ていると、元労働者のこの稚拙な感想が、伊藤さんの文章に接した全国のみなさんの感動とは、それほどかけ離れてはいないのではないかと考えています。最後に、モーツァルトとベートーヴェンの"名誉"のためにひとこと申し添えますが、モーツァルトにも、とくに後期の作品にベートーヴェンを思わせるような力強い曲が、そしてベートーヴェンにもモーツァルトやショパンにおとらない美しい曲がいくつもあっていると思います。ちなみに、このふたりの大作曲家は生涯たった一度会っています。モーツァルトが31歳、ベートーヴェンが16歳のときでした。このときモーツァルトはベートーヴェンのただならぬ才能に「彼はいまに世の注目を浴びる音楽家になるだろう」と言ったと伝えられています。終

## 国民投票法案廃案 撤回の署名と 宣伝行動に参加しよう

東海平和委員会幹事は1月25日に駅頭で自由法曹団作成の国民投票法反対読本350冊を配布しました。緊迫した情勢の中、危険な法案の中身を一人でも多くの村民に知らせるため、会員の皆さんにチラシと署名用紙を届け、次のご協力をお願いしています。

3月14日(水)7時から8時 東海駅頭でチラシ配布予定。  
ご近所の周り、10人へチラシを配布して下さい。  
国民投票法案反対の署名を一人10名を集めるのお願い。  
幹事に個人が出来ることを連絡くれる事をお願いします。

**事務局便**  
「千の風に乗って」と言う歌がある。  
作者は不明だが曲をつけて、今「癒し」「生きる力」を与えてくれると静かにヒットしている。  
今号で柳岡さんの「尽力により、百里音頭」が発掘された。  
メロディを含め歌詞を広く募集し、来年「百里初午まつり」でみんなで歌えたらいいなと思うのは私だけかな?  
「歌声は平和の力、闘う力」 (ま)